

新規事業採択時評価結果（令和3年度新規事業化箇所）

担当課：道路局国道・技術課
担当課長名：前佛 和秀

事業の概要

事業名	北薩横断道路 一般国道504号 宮之城道路	事業区分	一般国道	事業主体	鹿児島県
起終点	自：鹿児島県薩摩郡さつま町広瀬 至：鹿児島県薩摩郡さつま町泊野	延長	10 km		
<p>事業概要</p> <p>北薩横断道路は、鹿児島空港からさつま町を經由し、出水地域に至る延長約6.5kmの地域高規格道路であり、九州縦貫自動車道などと一体となって広域交通ネットワークを形成するものである。</p> <p>宮之城道路は、北薩横断道路の中央部にあり、広瀬IC(仮)とさつま泊野ICを結ぶ延長10kmの道路を整備するものである。</p> <p>事業の目的、必要性</p> <p>北薩地域は、全国トップクラスのセリ価格であるさつま町の子牛や養殖数日本一である長島町のブリなどを九州縦貫道を経由し全国各地へ供給している。</p> <p>当該道路を整備することで広域道路ネットワークのミッシングリンクを解消し、北薩地域の農畜産物・水産物や工業製品等の飛躍的な販路拡大や安定した物流経路が確保され、北薩地域の経済・産業を支援する。</p> <p>全体事業費 約250億円 計画交通量 8,400台/日</p> <p>事業概要図</p>					

関係する地方公共団体等の意見

・さつま町など北薩横断道路沿線の4市2町で構成される「北薩空港幹線道路整備促進期成会」等から、北薩横断道路の早期整備を要望されている。

学識経験者等の第三者委員会の意見

—

事業採択の前提条件

・便益が費用を上回っている。
・地元自治体や地元団体から早期整備の要望を受けており、円滑な事業執行が可能な環境が整っている。

事業評価結果

費用対便益	B/C	1.2	総費用：158億円 （事業費：157億円 維持管理費：1.1億円）	総便益：187億円 （走行時間短縮便益：134億円 走行費用減少便益：36億円 交通事故減少便益：17億円）	基準年 令和2年	
	感度分析の結果	交通量変動	B/C=1.3 (交通量+10%)	B/C=1.1 (交通量-10%)		
		事業費変動	B/C=1.1 (事業費+10%)	B/C=1.3 (事業費-10%)		
		事業期間変動	B/C=1.1 (事業期間+20%)	B/C=1.3 (事業期間-20%)		
事業の影響	評価項目	評価	根拠			
	自動車や歩行者への影響	渋滞対策	○	・交通の転換により、現道の渋滞の緩和が図られる。		
		事故対策	○	・交通の転換により、現道の事故の減少が図られる。		
		歩行空間	—	・注目すべき影響はない。		
	社会全体への影響	住民生活	○	・第2次救急医療施設(霧島市立医師会医療センター・出水総合医療センター)への搬送時間の短縮に寄与する。		
		地域経済	◎	・広域交通ネットワークのミッシングリンクを解消し、沿線の農畜産物、水産物や工業製品等の安定した物流経路が確保され、地域の産業を支援する。 ・鹿児島空港と北薩地域のアクセス時間を短縮することで、北薩地域への観光振興に寄与する。		
		災害	◎	・浸水想定区域を回避することで、緊急輸送路の機能を強化するとともに、広域災害発生時のリダンダンシーを確保することができる。		
環境		—	・注目すべき影響はない。			
	地域社会	◎	・鹿児島空港や九州縦貫自動車道・南九州西回り自動車道と連結し、広域的なネットワークを形成することで、北薩地域との交流・連携が図られる。			
事業実施環境		◎	<p>・『かごしま未来創造ビジョン』において、重点的に推進する事業として位置づけられている。</p> <p>・さつま町など北薩横断道路沿線の4市2町で構成される「北薩空港幹線道路整備促進期成会」等から、北薩横断道路の早期整備を要望されている。</p>			

採択の理由

事業主体である鹿児島県が実施した評価結果に基づけば、費用便益比が1.2と便益が費用を上回っており、事業採択の前提条件が確認できる。

ミッシングリンクの解消による北薩地域の産業支援・物流効率化向上や、広域災害発生時のリダンダンシー確保など、当該事業の整備の必要性、効果は高いものと判断される。

以上により、本事業は令和3年度新規事業箇所として妥当であると考えられる。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。